

モデル事業名	琵琶湖を望む「観音寺の里」 水仙街道プロジェクトを通じた魅力・活力の創生
活動団体名	栗東市街道ものがたり百年協議会（リットウシ カイドウモノガタリ ヒャクネンキョウギカイ）
ホームページ	http://（活動団体のHPのアドレス） 準備中
所属／ 担当者名	栗東市 建設部 都市計画課／竹山和弘
連絡先	電話番号：077-551-0116、Eメールアドレス：toshikeikaku@city.ritto.lg.jp
活動地域	滋賀県栗東市観音寺地区（シガケン リットウシ カンオンジ）

● 活動地域の概要

- ◇栗東市の市街地中心部から約7kmの距離にあり、高低差は約280mに及ぶ。
- ◇観音寺地区は、観音寺集落1つからなり、平成17年国勢調査で人口が79人(平成12年から13人減)、世帯数が19世帯(平成12年から1世帯減)の小さな山村集落である。
- ◇年齢別人口は、年少人口が14.1%、生産人口が64.1%、高齢人口が21.8%となっており、人口増加が進む市内において、最も少子高齢化が進展している自治会のひとつとなっている。
- ◇観音寺集落へのアクセスする公共交通機関はなく、デマンドタクシーが運行されているのみである。
- ◇観音寺集落は、平成21年3月23日に開催した第1回栗東市景観百年審議会の開催地であり、同集落からの良好な眺望景観は百年計画の表紙を飾るなど、栗東市の貴重な景観資源である。



【位置図（栗東市全体での位置）】



【アクセス道路から見た集落地域と棚田】



【集落内のメイン道路と琵琶湖への眺望】

● 活動地域の課題

- ◇観音寺集落は、琵琶湖に接しない栗東市において唯一琵琶湖を眺望できる山村集落であるが、アクセス利便性が低く、地域資源である森林環境は担い手不足や高齢化などにより荒廃しつつあり、集落地域も空き家の発生、少子高齢化の進展による地域活力の低下が課題となっている。
- ◇集落全体の高齢化や活力低下が進展する中、集落住民が知恵を出し合い、汗をかき合い、周辺地域と連携しながら、不便な生活環境であっても、それに勝る快適で健康的な住環境の大切さを共有し、広く発信し、地域への誇りと愛着を高めていくことが課題となっている。

● 活動の内容（全体）

I 活動の目的：

◇地域住民のまちづくりリーダーと、多様な主体が参画・連携した「栗東市街道百年ファンクラブ」（栗東市街道ものがたり百年協議会の実働組織）が主体となって、景観の再発見・再認識による地域住民の意識の醸成、地域資源である間伐材等の活用や空き家を活用した交流事業など新たな交流の仕掛けづくりを行い、観音寺地区の活力の維持・向上と「栗東市街道百年ファンクラブ」の組織強化を目的としている。

II 活動の内容

◇平成21年度は、①水仙街道プロジェクト、②間伐材活用プロジェクト、③地域主導のあかりの演出プロジェクト、④古民家活用プロジェクトの4つの取組目標を掲げ、「観音寺まちづくりリーダー会議」で定期的に作戦会議を行い、個別事業に取り組んできた。また、地域住民の活動組織「観音寺天水木族」が組織された。

◇平成22年度は、間伐材の活用など、活動資金が少なくても実践できる取組を主体的に進め、山の資源を活用した積極的なPR活動を展開している。また、農林水産省の「田園歴史的風致土地利用推進事業」を活用し、地域の未来予想図づくりを更に検討していく準備に取り組んでいる。

・直近1年間の進捗（活動の状況）

- H22.04.13 リーダー会議（第10回）
- H22.05.26 リーダー会議（第11回）（未来予想図づくりWS）
- H22.08.01 「観音寺木づかい工房」 in 栗東夏祭り
- H22.09.25 竹プランターの製作
- H22.10.03 第3回堂々！！りっとう景観記念日（右写真）
- H22.10.23 水仙街道メンテナンス（球根分け作業等）
- H22.10.24 「観音寺木づかい工房」 in 「東海道ほっこりまつり」
- H22.10.31 ヒカリトオトノセカイ「観音寺のおとげしき」準備（竹スタードームの製作等）



地域資源の「竹」を活用し、第3回堂々！！りっとう景観記念日事業（寄せ植え講座）に竹プランターを提供

● 活動の成果（全体）

◇昨年度、地域住民の観音寺地区への誇りや愛着、ふるさとを想う気持ちを高めていくことに注目し多様な取組を進めてきた結果、少しずつではあるが地域住民の意識の変化が見られる。

◇特に、イベントを通じた都市住民との交流による意見交換により、地域住民の地域への誇りや愛着が高まり、主体的な意識が育まれ、今年度も栗東芸術文化会館さきらと連携し、都市住民との交流機会づくり（ヒカリトオトノセカイ2010）に積極的に取り組んでいる。

・直近1年間の成果など

◇地域住民まちづくりリーダーは、「観音寺天水木族」としてグループ活動を主体的に継続し、市内の様々な事業と連携して「観音寺木づかい工房」（子どもたちが木に親しむ機会づくり、間伐材のPR等）を積極的に開催している。

◇昨年度の取組で交流した「能美の里山ファンクラブ」（石川県）では、間伐材で製作した手作りの案内看板に共感が集まり、連携のシンボルとして石川県能美市でも同じデザインの案内看板が設置された。



10/24（日）の「観音寺木づかい工房」。多くの子どもが木に触れ合う機会を満喫していた。

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等）

◇人口規模が小さな山村集落であることや、これまでの集落活動などの経緯などにより、地域住民の本心が見えにくい（地域の結束を重視する）状況となっていることから、観音寺地区の暮らしやすさを高めようとする活動に対する理解と協力、主体的な意識をより一層高めていく取組が必要である。

◇また、地域住民リーダーが中心となりつつも、すべての地域住民が自らの知識や経験を活かして積極的に関わっていくことや地域内外のまちづくり団体とのネットワークをさらに広げ、活動を継続していく必要がある。

・展望（今後の取組み等）

I 今後の取組

◇今年度の都市住民との交流事業の経験を活かしながら、都市の雑踏から離れた心やすらぐ自然環境や歴史・生活文化などの地域資源を活かしながら、地域住民と多様な主体が連携しつつ、計画的・継続的に地域の活力の維持・向上に取り組んでいきたいと考えている。

◇特に、景観については、生活文化としての農作業や固有の景観特性に大きな影響を与える農地や山林などを一体的に踏まえた景観農業振興地域整備計画の策定にも取り組む予定としている。

II 今後の具体的な予定（決定しているもの）

◇H22年度 田園歴史的風致土地利用推進事業に基づく集落ビジョンづくりの取り組み

◇H22.11.14（日）ヒカリトオトノセカイ2010—観音寺のおとげしき—

◇H23.01.22（土）間伐材製品開発ワークショップ（京都橘大学竹山ゼミとの連携）